

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

<p>Q 1</p> <p>なぜ消防本部（署）を移転し新たに建設するのですか。</p>	<p>A 1</p> <p>現在の消防本部（署）は、建築後４６年以上が経過するとともに、木津川の浸水想定区域にあるため防災拠点としての強化を図ることを目的に新たに建設を行います。</p> <p>現在の庁舎の問題点は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築後４６年以上が経過し、施設・設備が老朽化</li> <li>・ ３m以上の浸水想定や、液状化の危険性が高い</li> <li>・ 防災拠点としての耐震が不足</li> <li>・ 周辺道路等が災害時に遮断され出動が困難になることを予想</li> <li>・ 職員数や業務の増加による狭隘化</li> <li>・ 女性職員が２４時間勤務することができる施設が未整備</li> <li>・ 敷地が狭く駐車場と訓練場を兼用しているため、総合訓練を行うスペースがない</li> <li>・ 来庁者用駐車場、住民対応窓口スペースが不足</li> </ul>
<p>Q 2</p> <p>移転先はどのように決めたのですか。</p>	<p>A 2</p> <p>平成２８年度に行った第三者機関による消防力適正配置調査により署所適正配置結果並びに今後の消防需要予測を踏まえ、運用効果等の算定を行ない、現在の消防本部（署）庁舎から南方向約１．２km及び１．８km付近（木津川市城山台９丁目付近）が適正場所とされました。</p> <p>これを基に木津川市から場所の提供を受け、当消防組合が庁舎を建設するものです。</p>
<p>Q 3</p> <p>どうして出張所の再編・統合を行うのですか。</p>	<p>A 3</p> <p>消防力の整備指針、車両・装備・人員の有効活用、火災や救急などの消防需要、地理地形等による地域性及びイ</p>

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

	<p>ンフラ整備による利便性の向上を勘案し、消防組合の全体状況から総合的に、将来に向けて継続していける消防体制を確立するため多角的に検討した結果です。</p>
<p>Q 4</p> <p>現在の木津西出張所と山城出張所を再編・統合して、新消防本部（署）庁舎に集約することのメリットとデメリットを教えてください。</p>	<p>A 4</p> <p>メリットは、各出張所で勤務する職員と車両を新消防本部（署）に集約することにより、消防力が強化できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部隊数の増加（指揮隊の創設）</li> <li>・救急隊の専任運用が可能（救急処置の充実）</li> <li>・複数隊での訓練が可能（職員能力の向上）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <p>施設整備の面では、施設の統合により共同利用するスペース（廊下、トイレ等）の規模を縮小化、最新の設計と設備を導入することにより迅速な出動体制を確保することなど効率的な施設と運用ができます。</p> <p>デメリットは、地域により救急車等の到着時間が増加することです。</p> <p>しかし、現状では、同一出張所管内において2件目の災害事案が発生した場合は、他の署所からの出動となりますので、発生場所によっては、時間を要する場合があります。集約により管轄の中心である新消防本部（署）に複数の救急隊等を配置することができ、重複出動時でも遅延することなく現場到着できます。</p> <p>その他、デメリットを克服する運用、施設の整備に努めます。</p>

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

<p>Q 5</p> <p>出張所の再編・統合により救急隊の到着時間がどれくらい遅くなるのですか。</p>	<p>A 5</p> <p>旧木津町地区への平均走行時間は4.0分から5.0分になります。</p> <p>木津西出張所管内では、ところにより到着時間が3.5分程度遅くなります。</p>
<p>Q 6</p> <p>再編・統合により救急車や消防車が減少するのですか。</p>	<p>A 6</p> <p>緊急車両や職員の削減は行いません。消防体制は維持します。</p>
<p>Q 7</p> <p>病院収容までの時間も遅くなるのでしょうか。</p>	<p>A 7</p> <p>現状と比較すると現場到着が遅くなる地域では、病院収容までの時間も遅くなると予想されます。</p> <p>しかし今後、医療機関との連携強化に努め、収容先病院を速やかに手配し、救急車が現場にて収容先手配のために滞在する時間を短縮し、病院収容までに要する時間短縮を図ります。</p>
<p>Q 8</p> <p>出張所を再編・統合する時期は、いつでしょうか</p>	<p>A 8</p> <p>木津西出張所は、新消防本部（署）の竣工と同時期に、山城出張所は、到着時間短縮対策として、城陽井手木津川バイパスの整備完成後、その周辺道路が整備された時期と併せた2段階統合を計画しています。</p>

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

<p>Q 9</p> <p>大災害に備えてヘリポートを整備する計画はありますか。</p>	<p>A 9</p> <p>ヘリポートの設置については、制限範囲に竹林等があり、離着陸地帯のスペースが確保できないため、地上部に設置できません。</p> <p>消防本部屋上への設置も考えられますが、建物強度等再検討が必要となるため、別敷地での対応を検討します。</p>
<p>Q 10</p> <p>自主防災組織や地域の住民が、防災教育や防災訓練が受けることができる研修施設を整備する計画はありますか。</p>	<p>A 10</p> <p>消防団員、自主防災組織や自治会等の住民の皆さんに火災体験、消火訓練、救命講習を受けていただける施設を検討しています。</p> <p>合わせて出張所の統廃合に伴い部隊数も強化することができ、今まで以上に地域へ赴き、消火訓練や救命講習等を行い地域力の向上を目指すことができます。</p> <p>他に訓練施設として主訓練塔には、側面に15mのはしごを設置し、内部には濃煙熱気室、火災消火訓練室、マンホール等での事故を想定した訓練室を設けます。</p> <p>副訓練塔には、災害対応資材備蓄倉庫、共同住宅の火災訓練を実施できる施設を設けます。</p>

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

<p>Q11</p> <p>新消防本部（署）の建設予定地は、傾斜地で盛土、切土により造成すること、また、竹林も近くにあり地質は粘土質で強度が脆弱だと思いますが、大地震や大雨で地滑り、崖崩れ、液状化が発生し庁舎が被災することはないのですか。</p>	<p>A11</p> <p>新庁舎の建設にあたっては、地質調査、地盤改良、また必要な基礎工事などを含め、地域の防災拠点の要として十分機能できるよう設計・施工を行ってまいります。</p> <p>また、竹林については、消防用地の有効な利用のため、北側竹林との境界に擁壁設置や竹の伐採、伐根、法面整形による急傾斜地崩落防止工にて施工します。</p> <p>地質については、必要に応じて地盤改良を施工し強度の確保に努めます。</p> <p>なお、当該建設予定地は、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、液状化現象並びに浸水被害の発生想定区域には指定されていません。</p>
<p>Q12</p> <p>新消防本部（署）の建設予定地の雨水や排水は、どこに流れるのですか。</p>	<p>A12</p> <p>下水（施設排水）は城山台地内の下水管路に接続し排水します。雨水は、小川流域となります。</p>
<p>Q13</p> <p>下流域の水害や水質汚染の対策は、どのように計画しているのですか。</p>	<p>A13</p> <p>建設工事中、竣工後も含め下流域への影響を考慮した油水分離層や既存する沈砂池及び調整池の活用も含め、治水施設の整備を検討します。</p>

消防本部（署）移転建設に関するよくある質問

<p>Q14</p> <p>新消防本部（署）の施設配置は、どのように計画されていますか。</p>	<p>A14</p> <p>建設予定地は、高低差のある斜面のため、3段に整地し、1段目に本庁舎、2段目に訓練施設、3段目に職員駐車場を計画しています。</p> <p>隣接地は「一般住宅地ゾーン」であるため、里山の景観に配慮し、周囲の緑地と一体となった景観の維持・保全に努め、施設はできる限り住宅地から距離を設け配置し、圧迫感が感じられないよう配慮します。</p>
<p>Q15</p> <p>新消防本部（署）庁舎から出動する救急車や消防車は、どのルートから出動する計画ですか。</p> <p>城山台9丁目の街区道路では、大型消防車が通行するには狭く歩行者が危険ではないでしょうか。</p>	<p>Q15</p> <p>交通安全を確保するため緊急車両、大型車両、来庁者車両及び職員通勤車両の経路が交差しない導線の工夫等を検討し地域へ配慮した経路に努めます。</p>
<p>Q16</p> <p>来庁する住民が駐車する駐車場はありますか。</p> <p>また、研修で使用する大型バスを駐車するスペースもありますか。</p>	<p>A16</p> <p>敷地内に来庁者用の駐車場と駐輪場を常設することを検討しています。</p> <p>また、大型バスで来庁される方々のために、駐車できるスペースの確保も検討しています。</p>